Information

花とみどり

埼玉県のマスコット「コバトン」

Vol.70
2017.2.16

夏色花壇提案プロジェクト

安行四季彩マットによる舗装面緑化

安行四季彩マットは、ビルの屋上や駐車場、ベランダなど、土のない所を緑化する県が開発した技術です。

熊谷スポーツ文化公園

安行四季彩マットを用いて当センターで設置しました（協力：川口市都市緑化植木生産組合）。
3ページも併せてご覧ください。

彩の国
埼玉県花と緑の振興センター

所長あいさつ

「稼ぐ力・人材力・地域力」

昨年は「埼玉農林業・農山村振興ビジョン」がリニューアル(平成28～32年度)され特に今後、標記３つの力を一層高める取組を推進していくこととしています。植木緑化造園事業者をはじめ地域の皆様と一体となった当センターでの本年度取組の一端を以下、紹介します。

【稼ぐ力】

①「TPP関連政策大綱」対応の国の新規「地域戦略プロジェクト」に参画し盆栽植木類輸出促進に向けネックとされる線虫伝播防止等、検疫病害虫防除の現地実証

②2020夏五輪を念頭にあゆみ野安行園芸センター・川口市都市緑化植木生産組合の協力を得て「県夏色花壇プロジェクト」で新規５樹木等を提案発信、温暖化・都市緑化に対応した３技術(高木マット・根域制限容器・舗装面コア抜簡易緑化)の開発実証

③2017世界盆栽大会を控え海外への販路拡大に向け埼玉スタジアム貴賓室展示(３回)を行う等PR活動を展開

【人材力】

①「全員合格！」センター主催の技術研修生全員が造園技能士国家検定合格→7名(1級3名2級4名)の担い手誕生

②埼玉輸出盆栽研活動促進を通じ会員拡充(新規4名)

③緑を育てるリーダー育成(園芸ボランティア30名)

【地域力】

「川口市(仮称)赤山歴史自然公園構想」と連動し赤山城跡～花と緑の振興センター～樹里安周辺に至るルートを、安行オープンガーデンや近隣名所で繋ぎ、緑化産業振興と町興しが一体となった取組を支援。緑の発信源、波及拠点モデル創生中。

今後もこれら生産振興対策とともに、APGという新しい分類体系に対応した樹名板整備を進め見本園機能としても一層の充実を図り、皆様に地域により開かれた機関としてあゆみを進めていく所存です。

◀夏五輪を想定した Welfare Garden

盆栽研による▶
埼スタ貴賓室での展示

生産者紹介

南部花卉生産組合

榎原（えのはら）　崇（たかし）氏

江戸時代からの植木産地・川口市で、「榎原園芸」の３代目として、枝物や切り花の生産・販売や地域の生産組織活動に取り組んでいます。

経営・技術の特徴

春から秋にかけては、ヒマワリ、ケイトウなどの切り花、冬は、サクラ、ハナモモなど伝統的な枝物の生産・販売を行っています。切り花は、水揚げに独自の工夫を加えることによって鮮度を長く保てるようにしています。枝物は、明治から続く「赤山の枝物」の技を駆使し、丁寧な枝折(しお)り物づくりに取り組んでいます。枝折(しお)りとは、本来輸送中に花や枝が痛まないように編み出された技術(し)ですが、高い技術で枝折(お)られた枝の束は、美しく充分観賞できるものです。

マグノリア類の枝折り▲

生産振興と啓発活動

明治26年に結成された「南部花卉生産組合(組合長 栗原猛)」の組合員として活動する傍ら、(株)世田谷花きの切り花・枝物出荷者で結成されているグループ「おおくら会」で、視察や勉強会などを通じて交流しています。「おおくら会」は30～40代の会員が多く、視野を広げるのに役立っています。

教育の場では、都内の中学校で、花に親しむ「花育」の授業を行いました。県内でも、機会があれば取り組んでみたいと考えています。

《取材を終えて》

「枝物」とは、木本性植物のなかで、花・果実・葉・枝ぶりが美しく、その切り枝が生け花やフラワーアレンジの材料に利用されるものをさします(「新特産シリーズ枝物(1998年農文協)」より)。

枝物は、生け花人口の減少などで需要が減少していますが、草本の切り花とは違った魅力があり、それをもっと広く伝えていきたいと感じました。

樹名板が変わります！
（国際標準の新しい分類体系を表記）

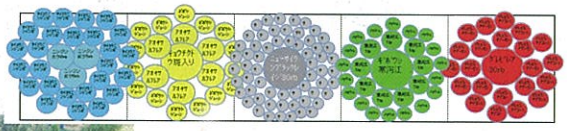
植物の分類は、外観形態の類似性が重視され、我が国では、エングラーの分類体系が主に用いられてきました。近年、DNAの塩基配列を基に植物を分類する分子系統学が急速に進歩しました。分子データから得られる情報は、形態から得られる情報より圧倒的に多く、かつ、データの解釈が簡単なことから、今後の植物名については、APG（Angiosperm Phylogeny Group 被子植物系統研究グループ）分類体系の表記を併用していくことが望ましいと考えています。

当センターでは、平成27年度から、樹名板の改修に着手しました。新しい樹名板はAPG分類体系とエングラー分類体系を併せて表記しています。樹名板の改修は完了まで５年かかる予定です。職員と、園芸ボランティアの皆さんの協力により進めています。

▲エングラー及びAPG分類体系を併記した樹名板

2020年を美しく飾ります
（夏色花壇提案プロジェクト）

県植木生産組合連合会による
▼展示（カラーリーフ花壇）



提案樹木等
- セイヨウニンジンボク
- キョウチクトウ（斑入り）
- ニューサイラン「ブラックレイジ」
- ギボウシ「寒河江」
- グレビレア

夏を彩る五輪

本プロジェクトは、2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックが夏季開催であることから、同時期の花き需要拡大を目指す取組です。熊谷スポーツ文化公園を会場に、32団体が展示を行いました。植木関連では、県植木生産組合連合会が低木類やカラーリーフなどを使用した花壇を、当センターは安行四季彩マットを使用した、舗装面上での庭園展示を行いました（表紙）。

緑のコラム
「植木類の輸出における線虫事故を防止する技術の開発及び実証」について

世界的に自由貿易の流れが加速される中で農林水産業の活性化を図り国際競争力を強化するためには、高品質、安全・安心な農産物の生産と輸出促進が重要です。植木・盆栽は日本の文化と伝統技術に裏打ちされた観賞樹で、家庭で手軽に楽しめるものから芸術品の域に達するものまであり、アジアやヨーロッパを中心に高い人気を維持しています。2014年農林水産物輸出概況によれば、植木と盆栽を合わせた輸出額は約8,142百万円、出荷本数約92万本と推定され、農林水産物の品目別輸出戦略において重要品目となっています。

しかし、土がついた植木・盆栽を輸出するには難易度の高い植物検疫を通過する必要があります。特に主要輸出先のEU諸国では植物寄生性線虫（ネグサレセンチュウ他６種類、写真参照）の侵入警戒から、厳格な植物防疫検査が実施され、国内の輸出前検査を通過した植木・盆栽から輸入国で線虫が検出され破棄処分となる事例や、線虫防除用薬剤によると思われる薬害が輸入後に発生して枯死する事例が見られ、輸出促進の障壁となっています。

この様なリスクを回避する目的で、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構中央農業研究センター、千葉県農林総合研究センター、埼玉県花と緑の振興センター、福岡県農林業総合試験場、有限会社ネマテンケン、一般財団法人日本花普及センターが、平成28年度から、外部研究資金を活用した共同研究を行うことになりました。その中で、当センターは埼玉県輸出盆栽研究会の協力を得ながら、シンパクとゴヨウマツを供試材料として、盆栽の線虫防除技術の開発を進めています。

（左）シンパクの盆栽（右）ネグサレセンチュウ

植木・盆栽に対して確実に検疫が通過できる安全性が付加されることにより、日本ブランドとしての植木・盆栽の地位が盤石になり、輸出の拡大につながることを期待しています。

園内の植栽樹木の紹介④
―園内植栽樹木の紹介（ツバキとサザンカ）―

当センターでは東園・西園合わせて約1,200本、約500品種のツバキ・サザンカを植栽していて、東園には日本の品種を、西園には西洋の品種を中心に植栽しています。

ツバキ、サザンカはツバキ科ツバキ属の樹木で、チャノキなども同じ仲間です。日本にはヤブツバキ、サザンカ、ユキツバキ、ヒメサザンカなどが自生しています。多くの園芸品種は、日本の原種を元に、日本で選抜育成された世界に誇る花木です。洋種ツバキも日本の園芸品種を元に作られた品種が多く、日本では大変育てやすい花木です。

ツバキとサザンカの違いの一つは開花時期です。サザンカは11月から見頃を迎えるのに対し、ツバキは多くの品種が３月に見頃を迎えます。また、花の散り方も異なり、サザンカがハラハラと花びらを散らせるのに対し、ツバキは花をそのまま落として散っていきます。

ツバキ「光源氏」

ツバキ「太郎冠者」

トウツバキ「仏陀」

サザンカ「丁子車」

川口の元気夢わーく体験事業に協力

花壇作りの様子

10月下旬の３日間、川口市立安行中学校１年の男子生徒３名が当センターで「夢わーく体験」という職場体験を行いました。職員やボランティア、研修生と共に、花壇作りや樹木の伐採、園内案内の補助など様々な業務を通して、仕事の面白さと大変さを学んでくれたと思います。

サクラソウ祭りを開催します

サクラソウ祭りでの販売の様子

当センターでは、サクラソウの園芸品種や野生種386品種・系統の保存を行っています。また、毎年４月の中下旬に開催しているサクラソウ祭りでは、サクラソウ花壇展示や栽培講習会、園内に植栽したサクラソウの花畑をお楽しみいただけます。江戸時代からの続く伝統的な品種を含め、園芸品種の販売も実施しています。

本館のトイレが大変身！

本館のトイレの改修工事を行いました。室内灯の自動点灯や洋式化など、環境にも人にも優しい設計となっています。また、本館１階の多目的トイレには、手すりはもちろん、子ども用おむつ交換台・チャイルドチェアも装備され、体の不自由な方にも、乳幼児を連れた来園者にも優しい施設です。

Information
花とみどり
平成29年2月16日発行

発行所／埼玉県花と緑の振興センター
発行人／埼玉県花と緑の振興センター　所長　落合 正宏

TEL：048-295-1806　FAX：048-290-1012
HP　http://www.pref.saitama.lg.jp/hana-midori/index.html
E-mail　h951806@pref.saitama.lg.jp

環境にやさしいベジタブルインクと、再生紙を使用しています。